

加賀検定

第11回 加賀ふるさと検定試験問題

上級 (全60問)

解答・解説付

2023年12月17日

加賀ふるさと検定・おもてなし講座実行委員会

各問題に対して、それぞれ①～④までの選択肢の中に正解が1つあります。解答用紙に、正解と考える番号を1つだけ○で囲って下さい。(黒色のエンピツもしくはボールペンを使用のこと)

1 加賀市の農家では、仏壇^{ぶつだん}を設置した座敷^{ざしき}を()と呼んでいた。

- ①ナンド ②デイ ③オエ ④ニワ

解答率 75.0%

高度経済成長期を境に大きな様変わりがみられます。町方も村方も、これまでの茅葺きや板葺きの屋根は瓦葺きに、間取りも機能的でモダンなものになりました。これまでは、「デイ」と呼ばれる座敷には仏壇が設置されていましたが、現在では、こうした農家もほとんど見ることができず、村方であっても機能的でモダンな家になりました。

2 動橋町の振橋神社^{ふりはし}には、昔、村内に娘たちを奪^{うば}っていく毒蛇^{どくじゃ}がいたが、()^{たいじ}が退治したという言い伝えがある。この毒蛇伝説が現在のぐず焼き祭りの起源^{きげん}とされている。

- ①オオナムチノカミ ②オオヒコノミコト ③イザナギノミコト ④スサノオノミコト

解答率 91.7%

動橋町の振橋神社には、「昔、毒蛇が住んでいて、深夜、年頃の女の子を奪っていくことがあり、人々は大変恐れていました。たまたまこの地を通り過ぎた大己貴神(オオナムチノカミ)は民が苦しむ姿を見て、すぐにこれを退治した」という伝承があります。この伝承に基づいて、現在の「ぐず焼き祭り」が行なわれるようになりました。なお、オオナムチノカミは「オオクニヌシノミコト」の異称です。

3 およそ6千年前、当地はもともと入江や浅い海であったが、その後、大聖寺川や動橋川から運ばれてきた土砂^{たいせき}が堆積して平野となった。こうしたところは()平野と呼ばれている。

- ①集積 ②沖積 ③湖跡 ④海跡

解答率 91.7%

加賀市の地形は大きく低地・台地・丘陵山地の3つに大別されます。低地の中心は江沼平野です。約6000年前の縄文時代は今より海面が2～3m高かったといわれ、江沼平野も、この時代は入り江や浅い海でした。その後、大聖寺川や動橋川などによって運ばれてきた土や砂が堆積して平野となりました。こうした平野は「沖積平野」と呼ばれています。

4 昭和29年、国営加賀三湖干拓事業^{さんこかんたく}により、柴山瀉^うの一部が埋め立てられ水田となった。これにより、瀉^{かた}の面積は、約() k m^2 から 1.7 k m^2 と縮小した。

- ① 2.3 ② 3.6 ③ 4.8 ④ 5.4

解答率 75.0%

柴山瀉はもともと面積が現在の約3倍の 5.54 k m^2 あり、その水は串川から今江瀉を経て、梯川へ注いでいます。しかし、昭和29年、国営加賀三湖干拓建設事業によりその3分の2が埋め立てられ水田に利用されました。

5 片野海岸の長者屋敷跡^{ちょうじゃやしきあと}では、海底火山の噴火^{ふんか}による火砕流^{かさいりゅう}がもたらしたと考えられる()が露出した地層や安山岩塊を間近に見ることができる。

- ①凝灰岩^{ぎょうかいがん} ②玄武岩^{げんぶがん} ③花崗岩^{かこうがん} ④砂岩^{さがん}

解答率 66.7%

日本列島の歴史は、今から2～6億年前の古生代にさかのぼります。その後は浸食と堆積を繰り返していましたが、約1500万年前の新生代新第三紀中新世に大規模な火山活動があり、流紋岩や凝灰岩といった岩石が堆積しました。その中の火山灰が堆積した緑色凝灰岩は、現在、広く建築材や墓石に利用されています。

6 ^{てんねんきねんぶつ} 天然記念物の鹿島の森は、石川県に所属し、アカテガニや()などの珍しい動物が生息している。

- ①ノミハマグリ ②ツルガマイマイ ③ヤマトシジミ ④カバサクラガイ

解答率 100.0%

国の天然記念物「鹿島の森」は、数百年来、斧が入ることがなく、そのため、常緑広葉林が生い茂り、原生林のままの植生を残しています。また、動物ではアカテガニ やツルガマイマイなどの珍しい生物が現在も生息しています。ツルガマイマイは主に京都府や福井県で生息するカタツムリの一種ですが、近年では稀少生物となっています。

7 ^{ひがしたにちく} 山中温泉東谷地区に所属する集落で、大聖寺川上流にあるのは()町である。

- ① ^{すぎのみず} 杉水 ② ^{おおづち} 大土 ③ ^{いまだて} 今立 ④ ^{まなご} 真砂

解答率 100.0%

山中温泉の東谷地区の大土、今立、荒谷、杉水の4集落は独特な山村環境が色濃く残されており、国の重要伝統的建造物群保存地区となっています。これらの集落は動橋川上流域に位置し、同じ経済・文化圏に含まれていますが、杉水町だけは、大聖寺川上流域に位置しています。

8 加賀市内でも^{がいらいしゅ}外来種の動物が多く^{せいそく}生息し、^{せいたいけい}生態系に大きな^{えいきょう}影響を与えているが、私たちがよく見かける()も外来種である。

- ①キジバト ②カラスバト ③ドバト ④アオバト

解答率 100.0%

その土地にもともといなかったはずの生き物が人間の手により持ち込まれて増えた生物を外来種といいます。外来生物は生態系や経済に重大な影響を与えることがあります。加賀市内の哺乳類ではアライグマ・ハクビシン、鳥類ではドバト、爬虫類ではミシシippアカミミガメ、両生類ではウシガエル、魚類ではオオクチバス・ブルーギル・ライギョ、節足動物ではアメリカザリガニ・シタベニハゴロモなどが外来種の代表的なものといえます

9 ^{おしおつじ} 小塩辻村の十村、^{かの}鹿野()は、明治2年、^{なかた}中田・^{はせだ}長谷田・^{うわばら}上原・^{つかたに}塚谷の^{かみやだに}紙屋谷4ヶ村の^{こうはい}荒廃した土地を^{かいこん}開墾するために紙屋谷用水を完成させた。

- ①小四郎 ②源太郎 ③喜三郎 ④伊之助

解答率 58.3%

鹿野源太郎は小塩辻村の鹿野家11代当主。紙屋谷4ヶ村を担当する十村となった源太郎は、水利が悪く荒廃したこの土地の農業振興のために、上原村の肝煎西野庄と門の協力を得て慶応3年7月に用水工事を起工。明治2年3月通水し、この地域の新田開発に成功しました。

10 加賀の^{きたまえせんしゅ}北前船主()は、明治22年、^{はこだて}函館に^{ほくようぎょぎょう}拠点^{てんしん}を移し北洋漁業に^{ちしま}転身し、干島で^{ていちあみりょう}定置網漁を成功させた。

- ①大家七平 ②西出孫左衛門 ③広海二三郎 ④久保彦助

解答率 83.3%

西出孫左衛門は橋立村の北前船主。明治22年函館に拠点を移し、カムチャツカに漁場を開き、北洋漁業に転身しました。函館では、区会議員・商業会議所特別議員などと活躍し、北海道経済界の重鎮となりました。また、地元にあつては八十四銀行の取締役や大聖寺川水電株の社長として、ふるさと江沼郡の発展にも尽力しました。

11 大聖寺^{なかちよう}仲町の^{はぶたえちりめん}機業家()は、^{せいしよくほう}羽二重縮緬などの^{かいりょう}製織法を改良し、大聖寺絹の発展を図った。

- ①山口宗一 ②篠原藤平 ③山田長太 ④吉野喜市

解答率 83.3%

大聖寺の機業家、篠原藤平は大聖寺仲町の絹問屋の長男で、明治41年、合資会社篠原商店、のちの錦城物産株式会社を創業。大正7年、南郷

村に日本絹織株式会社の誘致に成功しました。羽二重や縮緬等の製織法を改良し大聖寺絹の発展を図りました。昭和4年、これらの業績により水守神社境内に紀功碑が建立されました。

12 大聖寺藩医竹内家の次男、竹内玄同は、長崎で（ ）にオランダ医学を学び、その後、江戸神田で種痘所を設立し、院長となった。

- ①ロッシュ ②ハリス ③シーボルト ④ケンペル

解答率 66.7%

竹内玄同は、文化2年、大聖寺藩医竹内玄立の次男として生まれ、越前丸岡藩医の叔父の家を継ぎました。長崎の鳴滝塾で、シーボルトよりオランダ医学を学び、安政5年江戸神田のお玉ヶ池に種痘所を設立し院長となりました。同年7月、将軍徳川家定の急病に際し丸岡藩医より幕府医師に登用され法眼に、文久2年には法印となりました。

13 創価学会の2代目会長となった戸田城聖は、現在の加賀市塩屋町で生まれたが、2歳で北海道の（ ）村に渡った。

- ①真狩 ②更別 ③鶴居 ④厚田

解答率 25.0%

城聖が2歳のとき、一家あげて北海道の厚田村に移住しました。厚田村は現在の石狩市に属しています。昭和3年、城聖は日蓮正宗に入信し、同12年に牧口と共に創価教育学会を設立し、同年15年には理事長となりました。同18年弾圧により投獄されましたが、非転向をつらき同20年に出獄。翌年創価学会と改称して再建し、同26年に2代目の創価学会会長となりました。

14 加賀市の名誉市民で、わが国における北前船研究の第一人者である牧野隆信は、（ ）の生まれである。

- ①瀬越 ②大聖寺 ③柴山 ④橋立

解答率 25.0%

北前船研究の第一人者。江沼郡柴山村出身。昭和12年、石川師範学校本科を創業し、江沼郡内の各小学校や高等学校に教員として勤務し、昭和46年に加賀聖城高等学校校長、同48年には大聖寺高等学校校長となりました。この間、橋立町や瀬越町の旧船主宅に残された古文書などを調査し、北前船の実態解明に乗り出しました。

15 縄文時代早期の橋立大野山遺跡からは、（ ）文土器と呼ばれる県内最古の土器が出土している。

- ①尖底楕円隆起線 ②尖底楕円押型 ③丸底深鉢形豆粒 ④平底丸形撚糸

解答率 100.0%

縄文時代早期の生活は、旧石器時代同様にあまり明らかにされておらず、市内でも橋立大野山・伊切・美岬千崎海岸・柴山水底貝塚等の遺跡があるにすぎない。そのうち大野山遺跡から発見された1個の楕円押型文は、近畿地方の影響が強い縄文早期の資料として貴重です。

16 弥生時代前期末の（ ）からは、北陸で最も古い靱や最古の弥生土器が発見されたが、その土器は東北地方の影響が強く、縄文時代晩期の様式を残している。

- ①横北遺跡 ②弓波遺跡 ③柴山出村遺跡 ④新堀川遺跡

解答率 91.7%

柴山出村遺跡から出土した柴山出村式土器には粗製品と精製品の2種類があり、粗製品は東海地方との関連が強いとされていますが、精製品は岩手県大船渡市の大洞A式に類似しており、弥生式土器というものの東日本縄文晩期の遺風を強く残したものです。

17 法皇山横穴古墳群に近接する宇谷丸山では、この地域に形成された（ ）の丘陵に13基の横穴を築いた古墳が確認されている。

- ①安山岩 ^{あんざんがん} ②凝灰岩 ^{ぎょうかいがん} ③片麻岩 ^{へんまがん} ④石灰岩 ^{せっかいがん}

解答率 83.3%

宇谷丸山横穴古墳群は、昭和 32・33 年における凝灰岩の丘陵斜面での発掘調査により 13 基が確認され、当時としては珍しい前庭部の調査が実施されました。その結果、横穴の規模や構造は法皇山のものと大差はありませんが、築造開始は 6 世紀後半の法皇山より少し遅れ、ほぼ同時期の 7 世紀末期には終了していたと思われます。

18 昭和 7 年 (1932)、二子塚町地内の狐山古墳の石棺から、全国的にも 4 例しか確認されていない () という小さな鉄板を綴り合わせた甲冑が発見された。

- ①鎖甲 ^{さねこう} ②桂甲 ^{けいこう} ③短甲 ^{たんこう} ④綴 ^{しころ}

解答率 75.0%

狐山古墳から発見された副葬品は神獸鏡・銀製装飾品・玉類と甲冑・刀剣などの豊富な鉄製品を有しています。これらの副葬品は畿内との強い結びつきがうかがえ、当地域の統治に成功した江沼臣の一族に関係する古墳ではないかと考えられています。

19 奈良時代末期の () は、建造物の規模からみて、一般住宅とは考え難く、律令制下の郡家もしくは有力豪族などの住居に係わる遺跡ではないかと考えられている。

- ①西島遺跡 ^{にしじまいせき} ②千崎遺跡 ^{ちざきいせき} ③篠原新遺跡 ^{しのはらしんいせき} ④大菅波 A 遺跡 ^{おおすがなみ}

解答率 58.3%

昭和 47 年に行われた西島遺跡の調査範囲は限定されていたものの、南北棟の 5 棟の掘立柱建造物跡を確認し、さらに出土品は須恵器が大半で、うち 6 点の墨書土器がありました。これらのことから一般住宅とは考え難く、律令制下の郡家か庄園庄所または有力豪族などの住居に係わる遺跡ではないかと考えられています。

20 平安時代になると、それまで江沼郡を代表する地方豪族であった江沼氏は京都に移り、かわって、土着国司の末裔である () が新たな豪族として台頭した。

- ①藤原氏 ^{ふじわらし} ②大江氏 ^{おおえし} ③疋田氏 ^{ひきたし} ④長野氏 ^{ながのし}

解答率 91.7%

律令体制下において江沼郡を代表する豪族であった江沼氏は、平安時代には京都の下級貴族、下級役人となり、郡司層のなかには登場しなくなりました。その江沼氏にかわって新たに台頭したのは、土着した国司の末裔である大江氏でした。

21 文永 10 年 (1273) に、領家と争い土地を折半する「和与中分」を行った熊坂庄地頭職の御家人大見実泰は () 国の出身である。

- ①相模 ^{さがみ} ②武蔵 ^{むさし} ③伊豆 ^{いず} ④下総 ^{しもうさ}

解答率 33.3%

弘安 10 年 (1287) の関東下知状によると、文永 10 年 (1273) に、「承久の乱」を機に熊坂庄の地頭職を領有した伊豆国出身の大見実泰と当時の領家徳大寺家派遣の預所との相論 (係争) が、領家と地頭で下地の中分 (折半) する条件で、和与 (示談) となり、幕府も承認したことを伝えています。

22 南北朝の動乱が始まる元弘 3 年 (1333)、菅生社神主狩野頼広は、能美郡国人 2 人と共に () に参陣して、新政府に属する態度を明確にした。

- ①新田義貞 ^{にったよしさだ} ②楠木正成 ^{くすのきまさしげ} ③足利高氏 ^{あしかがたかうじ} ④名和長年 ^{なわながとし}

解答率 41.7%

足利高氏は、鎌倉幕府を離反し、京の六波羅探題の滅亡、越中守護所の放生津館の炎上などを機に、加賀国菅生社神主狩野頼広や同国府南社御供田地頭建部頼春・同国八幡一分地頭八幡尚成とともに参陣し、後醍醐天皇の討幕運動に同調し新政府に属する態度をあきらかにしました。

23 ^{きたのてんまんぐうりょう} 北野天満宮領となっていた^{とみつかのしょう} 富墓庄は、室町時代中期には、宮寺領とは名目だけとなり、
 わずかに（ ）の^{こうえい たかつじけ けんえき} 後裔の高辻家が^{けんえき} 権益の一部を保つだけになっていた。
 ① ^{ふじわらのみちなが} 藤原道長 ② ^{すがわらのみちざね} 菅原道真 ③ ^{みなもとのたかあきら} 源高明 ④ ^{たちばなのよしふる} 橘好古

解答率 58.3%

富墓庄の伝領関係については、高辻家の領有権が先行し、後に北野宮寺領に繰り入れられたものか、或いは北野宮寺領として成立し、後に高辻家が庄務職を入手したものは不明ですが、北野松梅院の権利は、現実に庄務を支配するのではなく、庄務を知行する高辻家から社納分百石の送付を受けるものでした。

24 応永 21 年（1414）に 14 世^{うしおづ} 遊行上人^{さいとうさね} 太空が潮津道場で法要を開いた時、齋藤実盛の霊があらわれたという話をもとに、その後、（ ）が^{ようきょく} 謡曲『実盛』を著した。
 ① ^{かんあみ} 観阿弥 ② ^{おんあみ} 音阿弥 ③ ^{ぜんあみ} 善阿弥 ④ ^{ぜあみ} 世阿弥

解答率 75.0%

潮津道場での別時念仏に、源平合戦で討ち死にした齋藤実盛の霊があらわれて結縁したので、太空が卒塔婆を書いてこれを鎮魂したと伝えられています。その卒塔婆が小松多田神社に蔵されており、年号が康応 2 年（1390）となっていますが、諸記録から応永 21 年（1414）の出来事に間違いなく「時衆過去帳」にも 14 世遊行上人の時に往生したとして「真阿弥陀仏（齋藤実盛）」と書かれています。

25 永禄 10 年（1567）一向一揆側と^{あさくらし} 朝倉氏との間で^{わぼく} 和睦が成立し、その結果、江沼郡一揆方の（ ）・^{まつやま} 松山両城と^{くろたに ひのや だいしょうじ} 朝倉氏方の黒谷・檜屋・大聖寺の 3 城が^{はきやく} 破却された。
 ① ^{なんごう} 南郷 ② ^{かしの} 柏野 ③ ^{ぞんぞく} 千足 ④ ^{つば} 津葉

解答率 16.7%

弘治元年（1555）朝倉宗滴の江沼侵入以降、10 年余にわたって一向一揆と朝倉勢の抗争が続きましたが、永禄 10 年（1567）足利義昭の仲介により和睦が成立すると、一揆方の柏野・松山両城と、朝倉氏の管理下に置かれていた黒谷・檜屋・大聖寺の 3 城が破却され、北陸道の封鎖も解かれることになりました。

26 南北朝時代における南朝方の^{はたときよし しゅつじ} 武将、畑時能の出自は（ ）の出身とされているが、俗説に^{はたまち} 大聖寺近郊の畑町とする^{はたまち} 伝承もある。
 ① ^{むさしのくにちちぶぐん} 武蔵国秩父郡 ② ^{むさしのくにひきぐん} 武蔵国比企郡 ③ ^{しもうさのくにかとりぐん} 下総国香取郡 ④ ^{しもうさのくにそうまぐん} 下総国相馬郡

解答率 25.0%

畑時能は武蔵国秩父郡の出身とされ、南朝方新田義貞の被官で、当時南朝方であった狩野一党と組んで、「大聖寺ノ城」に盾籠もる津葉清文を攻撃しました。義貞が越前藤島で戦死すると、越前・加賀共に足利方一色となり、時能は孤軍奮闘の末、大野郡で戦死しました。

27 江沼郡^{あかお} 赤尾を拠点とした一向一揆の大將^{ふじまるしんすけ} 藤丸新介は、天正 5 年（1577）^{うえずぎかげかつ} 越後の上杉景勝に仕え、同 10 年、（ ）の戦いで^{しばたかついえ} 織田方の柴田勝家に^{じじん} 攻められ自刃した。
 ① ^{しばたじょう} 新発田城 ② ^{むらかみじょう} 村上城 ③ ^{となみじょう} 砺波城 ④ ^{うおづじょう} 魚津城

解答率 100.0%

藤丸新介は、江沼郡赤尾を拠点とする一向一揆の大將で、天文 24 年（1555）朝倉宗滴が江沼郡に侵攻した時、南郷城に黒瀬掃部丞戸とともに迎え撃ちましたが敗退しました。その後、赤尾を捨てて横北に逃れたと伝えられていますが、天正 5 年（1577）越後の上杉景勝に仕え、魚津城の守備につき、同 10 年柴田勝家に攻められて自刃したと伝えられています。

28 後藤才次郎は、万治 2 年（1659）^{せいとうほう} 藩命で製陶法を習いに^{ひぜんありた おもむ} 肥前有田に赴き、（ ）で出

会った明の陶工数名を伴って帰藩し、古九谷窯を開いたといわれる。

- ①伊万里 ②平戸 ③長崎 ④佐賀

解答率 91.7%

後藤才次郎はもともと加賀藩に仕えていましたが、大聖寺藩分立の際、初代藩主前田利治が九谷山奥に金鉱を求めて開発しようとしたために、山師を引き連れて大聖寺に移り住んだとされています。伝承では万治2年(1659)、藩命で製陶法を習いに肥前有田(佐賀県)におもむき、長崎で出会った明から亡命した陶工を数名伴って帰藩し古九谷窯を開いたといわれています。

29 塩屋村の肝煎井斎長九郎は、天保7年(1836)大聖寺藩植物方奉行()より松苗

を砂丘に植えるよう命じられ、私財を投じて人工林をつくることに成功した。

- ①塚谷源右衛門 ②奥村永世 ③土田治兵衛 ④小塚藤十郎

解答率 75.0%

小塚藤十郎(秀得)は、文政7年(1824)藩から植物方を命ぜられ、上木村ほか5ヶ村に松・杉・槻・漆・桑・茶等を植え、翌8年松奉行、同10年用水奉行、天保10年(1839)産物方に任じ、その任をよく果たしたが、特に人生を松の植林事業に捧げ、今日の加賀海岸の松林の基礎を築いたことは大きい。また、天保15年に領内の総合地誌『加賀江沼志稿』32巻を完成させました。

30 大聖寺城主山口宗永は、()の出身で、慶長3年(1598)4月に越前北庄城主小早川

秀秋の家老として大聖寺城主となり、江沼郡7万石を支配した。

- ①筑前国 ②備前国 ③山城国 ④筑後国

解答率 91.7%

筑前・筑後(福岡県)の領主であった小早川秀秋は、慶長3年(1598)4月に豊臣秀吉の命により越前北庄に移され、江沼郡も領しました。このとき、秀秋の筆頭家老であった山口宗永は、秀吉の直臣に転じて大聖寺城主となり、江沼郡7万石を支配しました。宗永は山城国(京都府)の出身で、筑前・筑後の検地を実施するなど、理財の道に優れた人物でした。

31 初代大聖寺城代の太田長知は、慶長7年(1602)5月に加賀藩主()の命で横山長知

によって金沢城内で斬殺された。

- ①前田利家 ②前田利長 ③前田利常 ④前田光高

解答率 66.7%

加賀藩は、慶長5年(1600)8月の大聖寺合戦後から寛永16年(1639)6月の大聖寺藩の成立まで、大聖寺城代(のち郡奉行)を置き江沼郡を支配しました。大聖寺城代は、元和2年(1616)まで太田長知・小塚権太夫・横山長知・近藤長広・津田重久などが派遣されました。初代城代の太田長知は、慶長7年(1602)5月に利長の命で横山長知によって金沢城で斬殺されました。

32 大聖寺藩祖前田利治が万治3年(1660)4月、江戸で死去したとき、中沢・小沢・小栗の家

臣3人が殉死したが、このうち小栗権三郎は5月3日に()で自害した。

- ①宗英寺 ②久法寺 ③全昌寺 ④寛慶寺

解答率 91.7%

大聖寺藩祖前田利治は、万治3年(1660)4月21日に江戸で死去しました。このとき、中沢久兵衛(35歳)、小沢三郎兵衛(49歳)、小栗権三郎(22歳)の3人が殉死(追腹)しました。小沢は4月27日に信州(長野県)善光寺に隣接する寛慶寺で、中沢は5月3日に全昌寺で、小栗は5月2日に久法寺で自害しました。彼らの墓はいまも実性院にある利治の墓の後方に立てられています。

33 大聖寺藩主前田利明は、延宝4年(1676)に中田村五郎兵衛と足軽を加賀藩領の河北郡

()に派遣し、御料紙や日常紙の製法を習得させた。

- ①二塚村 ふたつかむら ②二口村 ふたくちむら ③二子村 ふたごむら ④二俣村 ふたまたむら

解答率 91.7%

大聖寺藩主2代前田利明は、延宝4年(1676)に中田村五郎兵衛と足軽の栗村茂右衛門を河北郡二俣村に派遣し、御料紙や日常紙の製法を習得させました。日常紙は、「紙屋谷」と呼ばれ、中田・長谷田・上原・塚谷など4か村(土谷村を加え5か村)で製造されましたが、御前延紙・銭手形紙など御料紙は中田村の角屋家と大茂谷家で製造されました。

34 大聖寺藩主前田利章 としあきらちせい 治世 しよとく の正徳2年(1712)、百姓一揆 なただら が起こり、数千人の農民らは那谷寺で役人たちを包囲して、「() は年貢」とする証文を書かせた。

- ①二分 にぶ ②三分 さんぶ ③四分 よんぶ ④五分 ごぶ

解答率 25.0%

大聖寺藩主前田利章治世の正徳2年(1712)には百姓一揆(正徳一揆)が起こり、数千人の農民が那谷寺の大功山で役人たちを包囲して、「四分は年貢、六分はもらい」(六割減免)とする証文を書かせた。このあと、農民らは串茶屋・庄・山代・山中などの間屋や十村宅を襲い、つぎつぎと打ち毀しを行いました。

35 大聖寺藩主前田利直 としなお の治世 かろう には、家老 かみやけ の神谷家 むらいけ と村井家 せいそう が政争を起し、宝永2年(1705)

には村井主殿 とのも が神谷内膳守 かみやないぜんもりまさ 応に() を命じ政治から遠ざけた。

- ①大年寄 おおとしより ②大老中 おおろうじゅう ③大家老 おおがろう ④大長老 おおちょうろう

解答率 50.0%

大聖寺藩主前田利直の治世には、家老の神谷家と村井家が政争を起し、宝永2年(1705)には村井主殿が神谷内膳守応に大年寄(名誉職)を命じ政治から遠ざけました。こうしたなか、同7年(1710)には主殿・倅はじめ、村井派が一挙に切腹や追放を命じられる疑獄事件(打首3人、追放8人、御暇17人、扶持放れ3人)が起こりました。

36 大聖寺藩では、江戸中期から菜種油 なたねあぶら や荏油 えあぶら のほかに桐油 きりあぶら や梹油 たぶあぶら を生産したが、油桐 み の実の生産量は江沼郡() 地区が大半を占めた。

- ①東谷 ひがし たに ②西谷 にし たに ③三谷 み たに ④三木 み き

解答率 58.3%

大聖寺藩では、江戸中期から菜種油や荏油のほかに桐油(油桐の実を搾る)や梹油(梹の実を搾る)も多く生産しました。油桐の実の生産量は、江戸後期に三谷の曾宇・直下・日谷村が領内の80%をしめていました。江戸末期には「大聖寺桐油」と称して加賀藩をはじめ、他領へも知られる産物となりました。これは灯油のほか、油紙・合羽・害虫駆除用などに多く使用されました。

37 大聖寺藩主() は、鷹狩 たかが りや遊芸 ゆうげい を好み、藩政 てんめい をかえりみななかったために、天明

2年(1782)5月、加賀藩主11代前田治脩 まえだ はるなが から大聖寺藩邸 ゆうへい で幽閉を命じられた。

- ①前田利章 まえだとしあきら ②前田利道 まえだとしみち ③前田利精 まえだとしあき ④前田利物 まえだとしたね

解答率 83.3%

大聖寺藩主6代前田利精は、父5代利道の喪中も遊楽にふけり藩政をかえりみず、加賀藩主11代前田治脩の戒告にも耳を傾けなかったため、天明2年(1782)5月に同10代前田利重と11代前田治脩から廃位されました。大聖寺藩邸の縮所で3年余、金沢城下で5年の幽閉を経て寛政3年(1791)5月に大聖寺藩邸へ戻されました。

38 大聖寺藩主は、参勤交代 さんきんこうたい で下街道 しもかいどう を利用したときは、金沢城下に宿泊するとともに、金沢城

へ出向 じゅうしん き藩主 あいさつ や重臣 てんとくいん に挨拶 さんけい するとともに() や天徳院 てんとくいん を参詣 さんけい した。

- ①桃雲寺 とううんじ ②宝円寺 ほうえんじ ③大乘寺 だいじょうじ ④松月寺 しょうげつじ

解答率 100.0%

大聖寺藩主の参勤交代には、金沢方面へ向かう中山道經由の下街道（131里）と福井方面へ向かう中山道經由の上街道（148里）、東海道經由の上街道（139里）の3コースがあり、下街道は距離が短いことから最も多く利用されました。大聖寺藩主は下街道を利用したとき、必ず金沢城下の旅籠に宿泊して、金沢城へ出向き重臣に挨拶するとともに宝円寺や天徳院を参詣しました。

39 寛永16年（1639）大聖寺藩祖前田利治まえだとしはるが得た領地は、江沼郡133か村および越中新川郡7か村の合計分であるが、江沼郡（ ）は、父利常の養老領として外された。

- ①月津村つきづむら ②那谷村なたむら ③分校村ぶんぎょうむら ④中代村なかだいむら

解答率 50.0%

初代大聖寺藩主。加賀藩3代藩主前田利常の3男で、利治の母親は將軍徳川秀忠の娘にあたる天徳院（幼名珠姫）。寛永16年（1639）父から7万石を分与され大聖寺藩の前田家初代藩主となりました。利治は鉾山開発や九谷焼・山中漆器などの産業を奨励しました。

40 大聖寺藩祖前田利治は、承応2年（1653）に藩財政が窮迫きゅうぱくしたため、筆頭家老ひつとうがろうの（ ）をはじめ、家臣24人を加賀藩へ返還した。

- ①玉井市正たまのいいちのかみ ②織田左近おださこん ③神谷内膳かみやないぜん ④村井主殿むらいとのも

解答率 58.3%

大聖寺藩初代藩主前田利治（1618年～1660年、加賀藩3代藩主・前田利常の3男）に従い入封した老臣・玉井市正が、寛永18年（1641年）金沢で師事していた通外祇徹和尚を大聖寺に招き、岡村に一庵を設けたことから始まり、祇徹和尚遷化の後、正保元年（1644年）、弟子・天柱響補を金沢から招き新手馬手寺院として開山し、開山を祇徹和尚、開基を市正の父とし、その法名・廓庵宗英居士から寺号を靈光山宗英寺と称している。

41 大聖寺藩では、塩屋、小塩、瀬越、塩浜、片野村などで漁業が盛んであった。このうち、塩屋村の猟船（漁船）数は、天保15年、領内で最も多い（ ）であった。

- ①15艘 ②25艘 ③35艘 ④45艘

解答率 33.3%

猟船数は江戸後期、塩屋村が25艘と最も多く、これに小塩村が13艘、瀬越村が10艘、塩屋村が7艘、片野村が6艘などと続きました。塩屋村は広大な漁業権を有し、大聖寺町とともに魚問屋が置かれていました。小塩村では天明8年頃から多くの漁師が北前船の水主になったため、漁業が次第に衰退しました。

42 北前船のふる里として知られる加賀橋立村はしたてむらには、寛政8年（1796）（ ）の北前船主きたまえせんしゅや船頭せんどうがいた。

- ①28名 ②35名 ③42名 ④53名

解答率 66.7%

大坂・北海道間を往来した北前船は、各地の港で積み込んだ荷物を売り買いし利鞘（差額）を稼ぐ「買積船」であり、橋立村には寛政8年（1796）に42名の北前船主や船頭がいました。鮭や昆布などの北海道の海産物を大量に大坂まで運び、多額の富を得ました。なお、橋立・塩屋・瀬越村には北前船を接岸できる港がなく、冬期間は大坂港の三軒屋（専用船囀場）に船を置きました。

43 伊能忠敬いのうただたから測量隊8人は、享和3年（1803）6月24日から27日まで大聖寺藩領の沿岸を測量し、大聖寺町の板屋いたやや（ ）、片野村の肝煎宅きまいたく、橋立村の因随寺いんずいじなどに宿泊した。

- ①吉田屋よしだや ②大和屋やまとや ③京屋きょうや ④松屋まつや

解答率 66.7%

伊能忠敬は享和3年（1803）2月25日に江戸を出立し、東海・北陸・佐渡を測量して、10月7日に江戸へ帰着するという第4次測量を行いま

した。忠敬ら測量隊8人は、同年6月24日に吉崎（本願寺かけ所泊）から大聖寺町に入り、同日に本町の板屋泊と松屋泊、25日に片野村の肝煎泊、26日に橋立村の因随寺（現福井別院橋立支院）泊をもって大聖寺藩領の海岸部を測量しました。

44 大聖寺藩主12代前田利義は、嘉永5年（1852）に（ ）を金沢の野町に遣わし、吹屋の村山四郎兵衛とともに大砲の鑄造を命じた。

- ①西出源蔵 ②西出孫左衛門 ③西出孫次郎 ④久保彦兵衛

解答率 83.3%

大聖寺藩主12代前田利義は、嘉永5年（1852）に西出源蔵を金沢の野町に遣わし、吹屋の村山四郎兵衛とともに大砲の鑄造を命じました。大砲は資金不足のため21挺中3挺しか完成せず、残りの18挺は北前船主の久保彦兵衛をはじめ、西出孫左衛門・増田又右衛門・酒谷長平・西野小左衛門などの献金によって鑄造されました。

45 菅生石部神社の神門は、文政8年（1825）に建仁寺流の（ ）が設計し、大聖寺・加賀両藩の大工棟梁を動員して造立された。

- ①小堀遠州 ②山上吉順 ③山森清助 ④天日清兵衛

解答率 58.3%

菅生石部神社の神門は、文政8年（1825）に建仁寺流の名工山上善右衛門嘉広の系統にあたる7代目善右衛門吉順が設計し、大聖寺藩主をはじめ有力町人らの寄進により、大聖寺・加賀両藩の大工棟梁を動員して造立されました。屋根はもともと棧瓦葺きでしたが、昭和5年（1930）の修理で銅板葺きとなりました。

46 大聖寺川の河口に位置する塩屋町には、鹿島の森があり、平安時代には天台宗の霊場が、また江戸時代には萬宝院と称する（ ）の道場があった。

- ①真言宗 ②浄土宗 ③臨濟宗 ④法華宗

解答率 83.3%

大聖寺川の河口に位置する塩屋町には、陸続きの鹿島の森（標高約30m、外周約600m）があります。この小島には平安時代に天台宗の霊場が、また江戸時代には万宝院と称する法華宗の道場があったため、数百年來、伐採を禁止してきました。そのため、タブ・スダジイ・ヤブニツケイなど常緑広葉樹林が生い茂る原生林が残されています。

47 後藤才次郎ゆかりの寺とされる、大聖寺の（ ）には、九谷焼初期の伝世品と推測される「古九谷色絵孔雀図平鉢」がある。

- ①本善寺 ②願成寺 ③毫摂寺 ④専称寺

解答率 75.0%

後藤才次郎ゆかりの大聖寺本善寺には、九谷焼初期の伝世品と推測される「古九谷色絵孔雀図平鉢」（口径32・7cmの大皿）があります。これは紺青が空色かかった発色をし、呉須の線描もあまり意識せず、厚く上絵付けする技法などから、初期京焼の色絵陶器や中国明末の色絵磁器に類似することが指摘されています。

48 菅生石部神社の天神講の際に、氏子の少年たちによって奉納される「蝶の舞」は、（ ）の舞・鈴の舞・蝶の舞の3種の舞を総称したものである。

- ①扇 ②天 ③炎 ④星

解答率 100.0%

菅生石部神社の天神講は江戸時代には大聖寺藩の藩祭となり、全住民が農作業を休んで参拝したといわれています。神事に合わせ、児童による市無形民俗文化財「蝶の舞」も奉納されます。舞は「扇の舞」・「鈴の舞」・「蝶の舞」があり、総称で「蝶の舞」といいます。加賀地方での稚児舞

は、ここ菅生石部神社だけで貴重な舞となっています。

49 明治初年(1868)、大聖寺藩で預かっていた浦上キリシタンたちは、その後、金沢の()に建てられた養生所ようじょうしょに送られた。

- ①尾山神社おやまじんじゃ ②卯辰山う たつやま ③大乘寺だいじょうじ ④野田山の だ やま

解答率 100.0%

明治初年、大聖寺藩が預かった50人の浦上切支丹のうち、5人が病死し、残り45人のうち、各寺院による説諭で改心した者は18人であったと記録されています。その後、この浦上キリシタンたちは、明治5年7月に金沢卯辰山の養生所に送られました。

50 明治4年(1871)に起きた「みの虫一揆」に対し、大聖寺藩はやむなく兵士を出動させ発砲した。その結果、農民()が死亡した。

- ①1名 ②2名 ③3名 ④4名

解答率 16.7%

明治4年(1871)11月、大聖寺県内で農民一揆が起きました。この一揆に対し、大聖寺藩はやむなく兵士を出動させ発砲し、その結果、農民1名が死亡し、数人が負傷しましたが、やがて農民たちは退散し、一揆は鎮定しました。

51 大聖寺藩士飛鳥井清あすかいきよしは、鉛筆製造を行なう際、ウィーン万国博覧会で鉛筆製造の技術を学んできた()の指導を得た。

- ①佐野常民さ の つねたみ ②井口直樹いぐちなおき ③小池卯三郎こいけ う さぶろう ④真崎仁六まさきにろく

解答率 100.0%

明治8年(1875)に富士写ヶ岳山麓の片谷村で良質の黒鉛が発見されました。この黒鉛を利用して鉛筆製造をしようと考えたのが、旧大聖寺藩士の飛鳥井清でした。彼は、ウィーン万国博覧会で鉛筆製造の技術を学んできた井口直樹の指導を得て、鉛筆製造を始めました。2人の出会いは、飛鳥井清が当時、大蔵省で勤務していたためと云われています。

52 明治24年、日本を訪問中のロシア皇太子ニコライが、現在の滋賀県大津市で暴漢に襲われたが、このとき皇太子の命を救ったのは、北ヶ市市太郎と()の2人の車夫であった。

- ①山畑甚三郎やまはたじんさぶろう ②北 畠 幸之助きたばたけこうのすけ ③ 向 畑 治 三 郎むかい は た じ さぶろう ④北 畠 幸 三 郎きたばたけこうざぶろう

解答率 16.7%

明治24年(1891)5月、日本を訪問中のロシア帝国のニコライ皇太子が、現在の滋賀県大津市で、警備にあっていた巡查・津田三蔵に突然斬りかかれ負傷しました。この時、皇太子ニコライの命を救ったのは、向畑治三郎と、江沼郡出身の北ヶ市市太郎の二人の人力車夫でした。

53 明治初年、江沼郡においては、小学校が21校設置されたが、このうち大聖寺では、錦城、京達、旗陽、()の4校の小学校が設置された。

- ①脩来しゅうらい ②有隣ゆうりん ③遷明せんめい ④玄笠くろかさ

解答率 75.0%

明治政府は明治5年8月にフランスをモデルとした学制を公布し、全国の学校を整備しました。江沼郡も、第2大学区23中学区に編成され、郡内に21の小学校が設立されましたが、特に大聖寺には、錦城・京達・有隣・旗陽の4校が設置されました。

54 現在の「加賀九谷陶磁器協同組合かがくたにとうじききょうどうくみあい」は、明治15年に()を会長として発足し

た「江沼郡九谷画工同盟会」が前身となっている。

- ①浅井一毫 ②竹内吟秋 ③飛鳥井清 ④北出塔次郎

解答率 66.7%

江沼郡における九谷焼業界は、明治15年に旧大聖寺藩士飛鳥井清を会長に発足した「江沼郡九谷陶画工同盟会」が始まりです。その後、山代九谷振興会や大聖寺陶芸研究会に分かれましたが、昭和33年の加賀市発足に伴い、これらは合体して加賀市九谷焼陶磁器振興会となり、さらに現在の九谷陶磁器協同組合となりました。

55 昭和33年1月(1958)、山中町を除く9ヶ町村が合併し、(旧)加賀市が発足した。翌34年には市制発足祝賀会が()にて盛大に開かれた。

- ①錦城小学校 ②大聖寺商工会館 ③旧大聖寺町役場 ④市役所新庁舎

解答率 66.7%

昭和33年(1958)1月に、山中町を除く9町村の合併により「加賀市」が誕生しました。加賀市は石川県で6番目の市制成立となりました。翌34年6月3日、錦城小学校の講堂で市制発足祝賀会が盛大に開催されました。なお、市役所新庁舎はさらに翌年の、昭和35年6月に完成しました。

56 江沼郡では、明治13年頃までにおよそ40の小学校が設立された。これにより、その就学率は、明治6年は()%であったものが、明治10年には40%に上昇した。

- ① 8 ② 18 ③ 21 ④ 28

解答率 50.0%

明治期における日本全体の就学率を見ると、明治6年で28.1%、明治10年で39.9%となっており、江沼郡もほぼ全国平均の数値となっています。但し、男女比で見ると、女子の就学率は男子のいずれも半分以上でした。

57 現在の片山津温泉総湯は、平成24年(2012)に世界的な建築家が()が設計したもので、全面ガラス張りで美しい柴山瀉を眺めることができる。

- ①磯崎新 ②谷口吉生 ③安藤忠雄 ④隈研吾

解答率 91.7%

平成6年(1994)には、世界的な建築家磯崎新氏による「中谷宇吉郎雪の科学館」が建設され、年間2万人(同25年度実績)の親子連れや観光客で賑わっています。また老朽化した総湯の建て替えをきっかけとして、世界的な建築家谷口吉郎氏の設計・監修による新総湯(共浴場)が同24年4月に建設され、片山津温泉の湯治いに賑わいを取り戻しつつあります。

58 明治13年(1880)、大聖寺商法会議所が設立され、初代会頭に()が就任した。

- ①梅田五月 ②飛鳥井清 ③石川嶂 ④新家熊吉

解答率 66.7%

昭和初年、大聖寺で発刊されていた新聞「聖城公論」によれば、明治13年(1880)「大聖寺商法会議所」が設立され、初代会頭に石川嶂が就き、前田幹、河崎時、梅田五月、山田長三郎、飛鳥井清清水惣八など大聖寺を中心とした実業家たち100名が議員となっていたことが記載されています。

59 山中温泉松浦酒造の「獅子の里」は、()付近から湧き出る名水を仕込水としてつくっている。

- ①鶴仙溪 ②菊の湯 ③医王寺 ④長谷部神社

解答率 91.7%

松浦酒造（有）の「獅子の里」は、山中温泉医王寺の境内から湧き出る名水「薬水」を仕込水としてつくられています。「獅子の里」の名前の由来は、その昔、湯治客を湯座屋に案内した湯女たちが浴衣を頭からかぶる姿が獅子に似ていたためと言われています。

60 現在、山中温泉文化会館内に事務所を置く「山中商工会」は、昭和 35 年、初代会長に（ ）を選任してスタートした。

①桂田又作

②中曾根治郎

③山田耕三

④田中 實

解答率 83.3%

山中商工会は、昭和 35 年の「商工会法」に基づき、その年に設立されたもので、初代会長には、よしのや依緑園の社長で、山中温泉旅館組合長や石川県議会議員などを歴任していた中曾根治郎が就きました。